

白日高歩（監修）

上泉 洋（著）

イレウスチューブ

基本と操作テクニック（第2版）

神山俊哉

北大大学院准教授・消化器外科・一般外科学

旧北海道大学医学部第一外科講座、現北海道大学大学院消化器外科・一般外科学講座の1年先輩である上泉洋先生により『イレウスチューブ基本と操作テクニック』の第2版が出版されました。内容は、本文は第1章から第18章におよび、途中にTeaTimeとして上泉先生の豊富な臨床経験によるエピソードや、研修医制度への意見なども述べられています。

上泉先生は、教室に入局後、岩見沢市立総合病院をはじめとして北海道内の基幹病院で活躍され、その臨床医としての能力は非常に高く評価されています。この著書はその優れた臨床医としての経験から生まれた多くのノウハウを盛り込んだ一冊です。

「先導子バルーン型イレウスチューブの開発の経緯・使用経験」の章では、初心者の医師が最初につまずく、胃内でのとぐろ、たわみを解消するための工夫を、図示しながら

分かりやすく解説しています。この章に引き続く、「X線透視下挿入法の実際」では、鼻腔からの挿入法、ガイドワイヤーの操作法、先端がKerckring皺襞などに引っ掛かった場合のトラブルシューティングが図解されています。これらのことは、日常、イレウス管を挿入する際に、困っていた点ではありますが、実際にはこのような点は、術者自身がイレウス管を挿入する際に、失敗を繰り返しながら身につけ感覚的にしか理解していなかった点です。今回、こうして図解と文章で解説していただくと、そんなに多くの経験を必要とせず、研修医でも、理論的にそのコツを理解でき、苦勞することなく挿入できるようになると思います。特にこれらの解説が、単にテクニックに終わらず、常に患者さん本位で、その苦痛を少なくすることを視点にして書かれている点が優れています。

今回の第2版では、経鼻内視鏡下での挿入法が詳細に記載されていま

す。最近では、経鼻内視鏡が行われる施設が多くなってきていることから、この方法を応用できるようになれば、患者さんへの苦痛軽減だけでなく、医師にとっても、挿入時のイライラの解消となることは間違いなさそうです。

イレウスチューブは、欧米ではあまり評価されていないのが現状ですが、実際の診療では、イレウス管での減圧により、開腹手術を受けずに済んだ症例も多く経験してきています。この書で学んだことを生かして、イレウスチューブが広く臨床の場で使用されるようになり、いずれはインターナショナルにも受け入れられることを祈っております。

●B5/頁 144/2011 年/定価 5,250 円
(本体 5,000 円+税 5%)

[ISBN978-4-260-01176-1]

医学書院 刊